

ユニバーサルデザイン 「だれもが暮らしやすいまちを」

いつでも・どこでも・だれもが使いやすいように

ユニバーサルデザインとは、障がいの有無、年齢、性別、民族などにかかわらず、だれもが使用しやすいように製品や建物、環境をデザインすることをさします。

筑紫野市庁舎は平成31年1月に完成しました。設計にあたり、だれもが利用することを目的に、ユニバーサルデザインを取り入れることに努めました。

その一部をご紹介します。



市役所一階「総合案内カウンター」

筑紫野市の総合案内は、市民の皆さんがわかりやすく、使いやすいように、工夫されています。

- 車いすの方に対応できるようにカウンターの高さが考えられています。これは、他の窓口のカウンターも同じです。
- カウンターの中に職員が立ち、四方を見渡し、一階に来た人の動きを把握しすぐに対応できるようになっています。



心のユニバーサルデザインを

このように目に見える「ところ」や「もの」も大切ですが「こころ」したらいろんな人に便利で安全だな」「これだと安心して使えない人がいるんじゃないかな」など、いつも自分の周りにいる人のことを想像してみることも大切です。そうすれば、多くの人がもっと豊かに暮らすことができます。はずです。

困っている人を見かけたら声をかけたり、そっと支援したり、他の人に寄り添い、思いをめぐらすことで自分から行動ができるようになると思います。私たちの意識は今からでも変えることができます。

私たち一人ひとりも「心のユニバーサルデザイン化」をめざし、だれもが暮らしやすいまち・筑紫野市をみんなでつくりましょう。

市役所の「みんなのトイレ」

- 手すりが設置され安全に使えるようになっています。
- 5カ国語で使い方の説明ができます。(1階と6階)
- 人工肛門・人工膀胱等を使用されている人が使いやすいように「オストメイト」対応になっています。
- オムツ交換台が設置され乳幼児を連れた人も安心して使えるようになっています。